

## 単刀直入

## ソーラーカー・レース

パリダカ優勝、清里在住 篠塚 建次郎さん(64)

# 温暖化懸念、ギネス挑戦

北杜市高根町清里に住んでいますね。

元々、女房(俳優三浦友和さんの姉ひろ子さん)の父親は今の甲州市塩山で警察官だった。その後、女房の両親が清里でペンションを始め、女房が手伝うことになった。僕は金曜日の夜に清里に戻り、月曜の朝、都内に向かう生活。還暦を過ぎ、山の生活もいかなと移りました。

サラリーマンとラリードライバーの二足のわらじを履いています。

18歳で大学の友人に誘われラリーに出て、はまった。三菱自動車に就職したのも、当時プロといえは相撲か野球で、プロドライバー契約はなかったから。でもラリーはやらせてくれ、走れなくなっても食っていきける。平日は宣伝部で勤務し、土日にラリーでした。やがて排ガス規制クリアへの対応で、会社はラリーから撤退。28歳から8年はプランクがあり、ストレスがたまりました。

ラリーに復帰後は、

1982年にパジェロが発売され、85年に外国人ドライバーでパリ・ダカールラリー(パリダカ)で総合優勝

た。86年、「次は日本人」と自分に白羽の矢が立ち、87年総合3位。帰国すると成田に報道陣が多いのに驚いた。女房とのつきあひも聞かれた。パジェロが月3千台、モータースポーツで初めて車が売れたと思います。97年に念願の優勝を果たしました。

2000年にパリダカで手と足の骨が折れる大けがをしました。ベッドの上で考えた。51歳、一足のわらじは限界。それまで出世も同期が一番多かった。優秀なサラリーマンは多いが、ドライバーは自分だけ。ラリーに集中しようとフランスのチームに出向した。53歳で引退勧告されたが、ま

だ走れると平行線をたどって、本社に辞表を書いた。03年のパリダカは日産車に乗りましたね。結果を出そうと無理をした。砂丘で転倒、顔や手足を骨折し重体だ。翌年は契約してもらえず、フランス日産から出たが、車が炎上した。その後もトライベートでも出た。そして08年、「テロリストが襲う」とレースが中止になった。数千万円の借金が残った。パリダカとともにあった生活が終わった。

08年に講演の打ち合わせで母校の東海大学に行った。東海大は当時から、国内ではソ

ラーカーの有力校だった。秋に南アフリカで1回目のソーラーカーレースがあるが、治安が悪く、参加を決めかねていた。「危ない人は日本でもいる」というと、一緒に行ってくれるならと。物見遊山の学生に雷を落として、戦う態勢に変わり優勝できました。

東海大とレースで優勝を重ねた後、昨年チームを別につくりました。温暖化への懸念が高まる今、真剣に開発すれば一生をかけた仕事になる。でも、学生は年1回の遠征がやっと。市販に向けて催事などやりたくて。スポンサーはすべて自分で集めた。昨年9月は南アフリカのレースでクラス優勝、その後、ギネス世界記録のスピードチャレンジをしたが、目標には達しなかった。レース用と車の仕様を変え、今年再挑戦する。



しのづか・けんじろう 1948年、東京都生まれ。東海大入学後にラリーを始め、三菱自動車入社。8年間のプランクの後、86年、世界一過酷と言われるパリ・ダカールラリーに参戦し、97年総合優勝。2008年以降、レースや催しでソーラーカー普及に努める。

### 「状況」に常に前向き

レースでチームをまとめるコミュニケーションや管理能力、見えない砂丘の先に向けて、一か八かの勝負をかける孤獨な決断力。ラードライバーとしての契約ではなく、社員となり、28歳から8年間、最も脂ののっていた時期にレースに出られな

くても腐らず、復帰の時期を待った粘り強さ。だが、目の前の篠塚さんは、静かで優しい。

パリダカのような数週間のマラソンレースと2〜3日でスピードを競うレース、両方で活躍する人はまずいないという。「そこはちょっと誇らしい」と話すときも静かだ。

50歳を過ぎても現役にこだわり、

「優秀なサラリーマン」に背を向けて戦った姿に、ぐっとくる。

日照時間の長い北杜市に住みソーラーカーと出会ったのは偶然でなく、広げたアンテナにかかるべくにかかったのだ。置かれた状況で常に前向き。5月、奥さんと再開するペンションには自分を見つめ直したいときに訪れた。 (渡辺嘉三)

取材を終えて